

○前計画の目標と主な成果について

1 生産の増大を図る多収技術の開発						主な成果
達成目標	H24	H25	H26	H27	H28	
野菜・果樹・キノコの生産を増大させる技術の開発	イチゴの初期収量増加技術					<ul style="list-style-type: none"> ・促成イチゴにおいて、紙ポット育苗での花芽分化促進による収穫期前進技術を実証し、佐那河内村や阿波市等の生産者が導入。 ・春収穫型において、2花蕾収穫に適する品種(グランドーム)を選定し、肥培管理などの増収技術を開発した。阿南市や阿波市等の生産者が導入。 ・大苗育苗により成園化が2年短縮された。 ・青色LED照射により増収・培養期間を短縮する技術を開発し、マニュアルを作成した。
	ブロッコリーの増収技術					
	ナシの早期成園化技術					
	LEDを活用したシイタケ増収技術					
畜産の生産を高める技術の開発	肉牛の素牛(もとうし)生産技術					<ul style="list-style-type: none"> ・人工乳にシヨ糖0.1%添加することで発育性が優れ、ルーメン絨毛の発達が促されることが示唆された。 ・牛受精卵を用いた新たな培養技術及び移植技術について検討した結果、受精卵の品質向上並びに長期不受胎牛の移植による妊娠の可能性が示唆された。
	受精卵移植技術による優良子牛の増産技術					
藻類増産技術の開発	ヒジキ養殖技術、出荷加工の実証試験					<ul style="list-style-type: none"> ・養殖技術を確立し、由岐地区、宍喰地区で藻類養殖の漁業権が設定された。
	ワカメ、ヒジキ等の増産安定化技術					

2 生産性を高める省力・低コスト生産技術の開発						主な成果
達成目標	H24	H25	H26	H27	H28	
野菜・果樹の省力・低コスト生産技術の開発	イチゴの省力・低コスト栽培技術					<ul style="list-style-type: none"> ・夏秋イチゴの育苗・定植作業の省力化が可能な株据置作型を開発し、現地(東みよし町水の丸)で導入されている。 ・日射量に対応した自動遮光システム及び高断熱資材による暖房コストの低減技術について現地実証し実用性を明らかにした。 ・安価で簡易に製作可能なトゲ取り機具を開発し、実演会等で生産者等に紹介。現場で普及している。 ・コゴミやウドのセルトレイ育苗技術を開発し、増殖育苗マニュアルを作成、配布、現場で活用されている。タラノメでは「芽出し工程」を加えた栽培システムを開発。 ・貯蔵温州ミカン、スタチの省力施肥技術について検討し、省力可能な肥料を開発した。スタチについては現地試験を継続中。
	トマトの低コスト栽培技術		LEDを活用した促成トマト安定生産技術			
	タラノメのトゲ対策技術					
	山菜の効率的な栽培システム					
	柑橘の省力施肥技術					
畜産物の省力・低コスト生産技術の開発	LED照明と養鶏生産性の検証					<ul style="list-style-type: none"> ・青色LED照射による生産性向上を確認。その後、実証試験を継続中。 ・乾乳後期飼料のイオンバランスを調整することで、産後の低カルシウム血症を予防する技術を開発した。 ・アタッチメントを開発し特許を取得。商品化に向けて機械メーカーと検討中。 ・大ヨークシャー種で産子数に差のある2カ所の遺伝子内SNPマーカーを明らかにした。 ・ヒナの低コスト生産につながる、原種鶏への換羽処理技術を開発した。 ・育成後期の高蛋白質飼料給与により増体の向上が図られたが、魚粉による食味への影響が懸念され、改善手法を検討。
	産後の生産性を高める移行管理技術の開発					
	ロールベール変形防止アタッチメントの開発					
	豚の改良に必要な遺伝子領域の絞り込み・DNAマーカーの開発					
	「阿波尾鶏」ヒナ低コスト化					
	ブロイラーの生産性向上技術					
森林の低コスト造林技術の開発	ポット大苗の開発		大苗生産実用化技術			<ul style="list-style-type: none"> ・ポット大苗の生産技術を開発し、現場に普及した。併せて、大苗の疎植により保育コストを削減できることを明らかにし、学会等で公表した。
	ポット大苗疎植の施業工程調査		生長量調査・保育コストの検証			
漁業の省力・低コスト技術の開発	衛星水温情報や漁海況情報の提供					<ul style="list-style-type: none"> ・水温、両海峡情報について、ホームページ、新聞、FAXで情報提供。ホームページは年間約12万件のアクセスがある。
シラス魚群マップ情報の提供						

3 市場で評価される高品質な農林水産物の生産技術の開発						主な成果
達成目標	H24	H25	H26	H27	H28	
野菜の高品質生産技術の開発	渭東ネギ、ラッキョウの高品質生産技術の開発					<ul style="list-style-type: none"> ・吉野川中流域川砂の手入れ砂効果を渭東ネギ、ラッキョウで検討し、土壌物理性改善効果を確認し、生産現場に情報提供した。 ・イボ果発生の諸条件を調べ、技術指導資料として役立った。また、2重被覆栽培のポイントを取りまとめ、早期作型の安定生産に役立った。
	「なると金時」の貯蔵障害究明、対策の確立					
	オクラの高品質生産技術の開発					
果樹の高品質生産技術の開発	ユズの鮮黄色果実生産技術の開発					<ul style="list-style-type: none"> ・ユズ果実を化繊布で被覆することにより早期出荷が可能となり、一部の農家で普及。 ・マルチ栽培と環状剥皮で糖度の上昇が見られた。
	モモの安定生産技術の開発					
キノコの高品質生産技術の開発	有用成分や栄養価の高いシイタケ生産技術の開発					<ul style="list-style-type: none"> ・ワカメカブを培地に添加することでヨード等を多く含むシイタケ栽培技術を開発し、センターニュースで公表した。
高品質魚介類の漁獲技術の開発			漁網による擦れ防止技術の開発			<ul style="list-style-type: none"> ・播磨灘にミニタチ網を導入し、シリヤケイカを効率的に漁獲。エビ・魚の二段階選別網。

4 食の安全性を高める総合的な病害虫管理技術の開発						主な成果	
達成目標	H24	H25	H26	H27	H28		
食の安全性を高める総合的な病害虫管理技術の開発	キュウリ耐病性品種の選定と微生物農薬利用技術					<ul style="list-style-type: none"> ・褐斑病に強い品種を選定し、生産現場に導入した。 ・萎黄病、菌核病に対する効果を確認するとともに処理時間を短縮し、生産現場で実証した。 ・腐敗病対策として太陽熱消毒技術マニュアルを作成し、約15haで導入された。また、レンコン田を走行する太陽熱消毒ビニール被覆機を開発し、現場実証において実用性を確認した。 ・ナス栽培で、害虫防除に土着天敵タバコカミメを周年利用できる技術を開発し、マニュアルを作成した。 ・超音波防除装置を開発し、特許を取得 	
	イチゴ圃場の低濃度エタノール消毒						
	レンコン田の太陽熱消毒技術						
	土着天敵等を利用したナスの害虫防除技術						
	環境保全型害虫防除技術(ナシ)				(スダチ)		
	果樹のヤガ類被害防止技術の開発				(製品化)		

5 消費者の健康志向に対応した生産技術の開発						主な成果
達成目標	H24	H25	H26	H27	H28	
消費者の健康志向に対応した野菜栽培技術	有害物質の吸収低減栽培、品種、調理法					<ul style="list-style-type: none"> ・ニンジンの外皮を除去することで、カドミウムを5割低減できることを明らかにした。可食部は品種に関係なく国際基準値以下であった。
	野菜の有機栽培技術					
家畜の病気を予防し抗生物質の使用量を抑える飼料の開発	乳酸菌発酵米飼料活用飼料の開発、給与技術の開発					<ul style="list-style-type: none"> ・2種類の乳酸菌発酵米をそれぞれ30%給与した結果、いずれも対照区(米30%)より発育の向上及び下痢症の発症低減が図られた。また、用いる乳酸菌によって育成成績に差がみられた。
水産物の安全性を高める技術の開発	貝毒被害防止技術、養殖漁場の環境保全技術					<ul style="list-style-type: none"> ・赤潮貝毒の発生はみられたが、監視により消費者被害を未然に防止した。 ・DNAチップを用いずPCRとランプ法で魚病診断
	DNAチップを用いた魚病診断技術の導入と改良					

6 地球温暖化等から農林水産業を守る技術の開発						主な成果	
達成目標	H24	H25	H26	H27	H28		
地球温暖化等から農林水産業を守る技術の開発	水稻の高温対応栽培技術					<ul style="list-style-type: none"> ・水稻高温耐性品種「あきさかり」の奨励品種採用につながり、平成29年産は474haの作付けがあった。 ・竹チップのほ場埋設処理により、一酸化二窒素の発生を約1割削減することを明らかにし、センターニュースで公表した。 ・根域制限、環状剥皮処理の併用でブドウの着色促進が図られた。 ・冷却水の飲水給与は、ブロイラー及び阿波尾鶏の暑熱による体温上昇及び熱死等を防止し、育成成績が改善された。 ・LEDを使用したキノコバエ捕虫器を開発、製品化された。生物農薬による防除を研究中。 ・自給飼料を主体とし、ビートパルプを5%DMの柑橘粕で代替した発酵TMRを泌乳中後期牛に給与した結果、5%DM代替までは、夏季において代替飼料として利用できることが示唆された。 ・養殖ワカメの高温耐性品種を開発し普及している。 	
	農地からの一酸化二窒素発生抑制技術				一酸化二窒素 25%削減		
	果樹の安定生産技術						
	鶏舎クールシステムの開発等						
	キノコ害虫の総合的防除技術						
	乳牛の夏バテ防止技術						
	ワカメ等の高水温適応株の作出						
			南方系の魚介類の高品質化と有効利用				
			磯焼け・藻食性動物対策技術				

7 地域資源の有効活用と環境保全に配慮した技術の開発						主な成果
達成目標	H24	H25	H26	H27	H28	
未利用資源を活用した環境保全型技術の開発	集落排水汚泥肥料の農業利用					<ul style="list-style-type: none"> ・汚泥肥料を活用したユズ栽培は可能であることが確認され、産地での利用が促進された。
	鶏糞を活用した新たな肥料の開発と施用技術					

8 消費者のニーズにマッチした新品種、新作目の創出						主な成果	
達成目標	H24	H25	H26	H27	H28		
野菜・果樹の新品種・新系統の育成	なると金時の新品種育成、新系統適応性試験					<ul style="list-style-type: none"> ・26交配10,348粒を播種6系統を選抜し、H29～30に選抜系統を現地試験中。 ・H28にイチゴ新品種「阿波ほうべに」を育成し、県下8団体へ種苗を供給。 ・レンコン新品種「阿波白秀」を育成し、品種登録した。平成28年度から種苗供給を開始し、平成31年度作は、50戸、3haで本格出荷に向けて栽培中。 ・晩成で緑色が濃い有望系統を選抜し、現在、品種登録に向け現地試験を実施 ・ナシ3系統、中晩柑1系統を有望とし、品種候補として選抜した。 	
	イチゴやトマト、キュウリなどの新品種育成、優良系統適応性試験						
	レンコンの新品種育成						
	スタチの優良系統の作出						
	ナシ、中晩柑の優良系統の作出						品種登録
「新とくしまブランド豚」の種豚群の整備及び飼育管理技術の開発	飼養管理技術		生産計画			<ul style="list-style-type: none"> ・「新徳島ブランド豚」＝「阿波とん豚」は、種豚の維持及び生産能力の改良に取り組む中で、59頭の繁殖豚を3戸の生産者に貸付けた。また、飼養管理技術についてマニュアル化した。 	
	90頭	300頭	600頭	600頭	600頭		
新たなキノコの栽培技術の開発	ホンシメジの安定栽培技術・低コスト化					<ul style="list-style-type: none"> ・マツタケ14菌株、ホンシメジ20菌株を収集した。シイタケ施設を利用したアラゲキクラゲ栽培技術を開発中。 	
							野生株の収集と栽培試験、新規キノコの人工栽培化
新たな水産対象種の養殖技術の開発	ワカメ、アオノリ等の新品種・新系統の作出					<ul style="list-style-type: none"> ・養殖ワカメ、スジアオノリの高温耐性品種を開発し、普及している。 ・由岐地区で試験養殖、漁業権が設定された。 	
	ヒジキの養殖技術						

9 農林水産物の付加価値を高める技術の開発						主な成果
達成目標	H24	H25	H26	H27	H28	
6次産業化に向けた加工・流通技術の開発	特用作物の品種選定と栽培試験					・ドクダミの栽培法を確立し、農副連携により中山間地で栽培された。
加工・業務用に適した野菜・果樹等の生産技術の開発	加工に適した野菜や果樹の栽培技術					・赤色色素の強い「露茜」の生産技術を確立し梅酒特区の美郷地域に普及した。
	ウメの新品種活用のための生産技術					
高付加価値牛肉の生産技術の開発	黒毛和牛の放牧育成試験					・地域未利用資源と自給飼料を活用した周年放牧肥育技術により、飼料自給率100%の肉牛肥育体系が可能と判明した。 β-カロテンが高く、脂肪の色が黄色い。
	放牧牛肉の機能性成分の分析					
県産木材の建築用部材の開発	スギ長スパン・複合梁等を活かした架構技術					・耐久性を保持した乾燥技術を開発し、特許を出願した。 ・耐水性を向上させる技術を開発し、本技術を用いた製品が大臣認定を受けた。
	内装材乾燥技術、外装用不燃木材の開発					
	大断面構造材の乾燥技術					・材面割れ等の損傷が無く、色艶についても天然乾燥材と比較して遜色の無い減圧乾燥技術を開発した。
	建築用部材(MDF)の開発					・産学官連携により、強化MDFおよびスギ厚板を用いた水平構面を開発し、性能認証の取得を行った。
水産物の鮮度保持技術の開発	シャーベット氷	活用指針作成、ブランド品作出				・シャーベット氷を活用し、シラス、イワシ、アジアカエビ、小エビ等の高鮮度出荷を実現した。 ・活魚箱を活用したアジアカエビ等小ロット輸送を実用化
		水産物高鮮度管理技術				

10 競争力のある「産地づくり」に向けた「経営モデル」の開発						主な成果
達成目標	H24	H25	H26	H27	H28	
生産規模拡大のための「経営法人化モデル」		会社など法人化モデル				<p>本県で目標となる経営形態や主な品目、新規就農者向けの品目として15モデルの作成に取り組み、普及指導職員への研修を行ったほか、各種研究会、CATV等で公開するとともに、農業技術ライブラリーに掲載した。</p> <p>①大規模経営として、水稲、ニンジン、レンコン、ブロッコリー、加エネギの5モデル</p> <p>②中山間経営等として、葉タバコ転換畑活用経営、定年帰農向けスタダチ経営、地域特産品の6次化経営、量販店向け販売など4モデル</p> <p>③新規就農者として、ニンジン、レンコン、ブロッコリー、カリフラワー、キュウリ、つまもの6モデル</p>
地域農業の維持発展を図るための「集落営農モデル」			集落営農モデル			
新たな品目や作付け体系導入による「ブランド産地モデル」		砂地畑農業モデル				
		葉たばこ転換畑活用モデル				
		果樹を含めた中山間地域振興モデル				
		水田地帯振興モデル				
新たな販売チャネルを活用した「販売モデル」		規格の簡素化	規格外品の商品化モデル			
			効率的輸送モデル			
			新たな販売モデル			
新たな商品化による「6次産業化モデル」		野菜・果実を活かした6次産業化モデル				

11 新技術の開発や研究を支える継続的基礎調査						主な成果
達成目標	H24	H25	H26	H27	H28	
土壌の長期変遷モニタリング調査	土壌調査・データの蓄積					・農耕地土壌では、施肥量の減少に伴い加里、ケイ酸、鉄の含量低下が深刻化していることが明らかとなり、普及現場や生産現場に情報提供した。
気象と作物・果樹の生育調査	調査・指導					・水稲、果樹を毎年同一条件で栽培し、生育収量等を調査し、データを蓄積した。
ブロイラー銘柄別	ブロイラー銘柄別産肉能力調査					・主要銘柄の性能を調査し、養鶏農家の飼養管理技術改善に結びつける指針を得た。
マツノマダラカミキリ成虫の発生状況調査及び森林病虫獣害に対する継続的な監視	発生消長調査、監視					・センター内の網室でマツノマダラカミキリ成虫の発生消長を調査し、関係機関に情報提供した。
海洋観測および調査結果の提供	水温、塩分濃度、溶存酸素量、栄養塩類などの観測					・継続実施
魚介類の資源量と漁業実態の把握	主要な魚介類の資源量調査					・主要漁業における主要魚種について資源量を継続調査
	各種漁業の実態調査					・継続実施
	アユの資源量調査					・資源量と放流効果を継続調査

12 遺伝資源の保存と優良種苗・種畜等の供給						主な成果
達成目標	H24	H25	H26	H27	H28	
農作物・キノコの新種、原種、優良系統等の保存と供給						・水稲について奨励品種の優良種子生産のため、原種あるいは原種を供給した。センターが育成したフキおよびタラノキ各2品種の保存を行うとともに、県内の許諾者に種苗を販売した。
						・試験材料とするため、ホンシメジ20菌株、マツタケ14菌株を継代培養により保存。
牛の優良受精卵の安定的供給	受胎率 50%	50%	50%	50%	50%	・優良受精卵の安定供給を図ることにより、県内牛群の改良促進が図られている。
とくしまブランド畜産の能力維持と種畜等の供給	アワヨークの基豚供給頭数 40頭	40頭	40頭	40頭	40頭	・阿波ポークの基豚となるアワヨークについて該当期間に189頭の種豚を生産者に供給した。年間出荷羽数200万羽超えの阿波尾鶏生産を支えるべく、計画的な種卵供給を行った。
	阿波尾鶏原種鶏の種卵の供給					
無花粉スギ、精英樹の保存						・採種圃3,300㎡を整備し、特定母樹667本、少花粉品種母樹456本を植栽し管理。
水産物の遺伝資源の保存と優良種苗の供給	ワカメ種苗の収集と保存					・配偶体として収集、継続保存培養、美波庁舎でも保存。
	アユ優良種苗の生産と配布					・冷水病に強い短期世代(F1~4)を生産
	スジアオノリの優良品種の配布					・高水温耐性株を配布。漁連で種苗生産。
希少野生生物の増産と配布	カワバタモロコ種苗の増殖					・継続して種苗生産を実施、一部個体をため池に放流試験実施